

新入生アンケートの結果に見られる 平成14年度入学生の特徴

国重徹*

The Characteristics of the Freshmen in 2002 ---An Analysis Based on the Results of a Questionnaire to the Freshmen---

Toru KUNISHIGE*

Abstract

The school counselors' office was set up at Tokuyama College of Technology three years ago. The staff of the office decided to support the students proactively rather than reactively last year. As a kind of the proactive support, the school counselors' office adopted a questionnaire to the freshmen inquiring about their worries, motivation to study and so on for the first time last year. The same questionnaire was used in April this year in order to help the freshmen to adapt themselves to the new environment.

This report analyzes the results of the questionnaire and shows the characteristics of the freshmen in 2002.

Key Words : school counselors' office, proactive support, adapt, new environment

1. はじめに

平成11年4月に徳山高専に学生相談室が設置され、3年余りが経過した。平成13年度からは、それまでの、ともすれば受動的になりかねない相談活動に加えて、「学生相談室は全ての学生に対して、心身の健全な発達のために必要な援助を行う」という、より積極的、予防的、能動的な立場で、「年齢や学年等、学生の発達の援助を行うことを目的とした学生相談室プログラムを取り入れること」を活動の基本方針とした。

国重、佐々木¹⁾や佐々木、国重²⁾に詳しく論じられているこの相談室プログラムの中で、本稿では新入生アンケートを取り上げる。

中学という義務教育機関を卒業し、高等専門学校という高等教育機関に入学したばかりの学生が、これまでと全く異なる新しい環境にうまく適応するこ

とは就学上非常に重要なことである。

そこで、新入生のさまざまな状況を知り、彼らが少しでもスムーズに新しい環境に適応できるように援助する目的で、鳴澤³⁾による学生相談室の役割のうち、調査研究の一環として平成13年4月に初の新入生アンケートを実施した。平成13年度徳山高専学生相談室報にも詳述したように、このアンケート結果を活用した新入生の適応援助にはある程度の成果があったと言える。

平成13年に引き続き、平成14年4月には平成14年度新入生に対して、同じアンケートを実施した。アンケートに基づき、入学当初より悩みを抱えている学生及び入寮した新入生全員に対して個別面談を実施した。

本稿は、平成14年4月に実施した新入生アンケートの実施方法及びアンケート結果を示すとともに、結果の分析から平成14年度新入生の特徴を考察す

* 一般科目（英語）

るものである。

2. 新入生アンケート

新入生アンケートは、鳴澤⁴⁾の東京都立大学新入生対象アンケートを徳山高専に合うように変更したものである。

アンケートは記名式で、全員に23の項目、寮生には6項目を追加して尋ねた。対象は、平成14年度入学生123人(男子98人、女子25人；自宅通学生109人、寮生14人；機械電気工学科生42人、情報電子工学科生41人、土木建築工学科生40人)で、123人全員から回答を回収することができた。アンケートは、4月10日に、学生相談室オリエンテーションで実施・回収された。

以下に、アンケートとその回答の全てを示す。回答はパーセンテージで()内に示してある。

1. あなたは自宅から通学していますか、それとも寮生ですか。
(a) 自宅通学生(88.6) (b) 寮生(11.4)
2. あなたは中学校時代にクラブ活動に参加していましたか。
(a) はい(99.2) (b) いいえ(0.8)
3. あなたが徳山高専に進学を決定したのはいつですか。
(a) 小学生の頃(4.1) (b) 中学1年生の頃(8.9) (c) 中学2年生の頃(26.8) (d) 中学3年生の頃(60.2)
4. 徳山高専はあなたが第一に志望した学校ですか。
(a) はい(92.7) (b) いいえ(7.3)
5. あなたは徳山高専の本当に入りたかった学科に入れましたか。
(a) はい(98.4) (b) いいえ(1.6)
6. あなたが徳山高専に入学した動機は何ですか、次の該当するものすべての記号を○で囲んで下さい。
(a) 入学しやすい(8) (b) いいところに就職できる(65.9) (c) 通学の便がいい(9.8) (d) 経済的な理由(8.1) (e) 先生や親にすすめられた(21.1) (f) 自由な校風だから(29.3) (g) 先輩・知人がいる(3.3) (h) 兄弟がいる(2.4) (i) 自分の志望に合っている(65.0) (j) 他に入学するところがなかったから(2.4) (k) 何となく(8.9) (l) その他(8.1)
7. あなたは中学校時代に満足のいく学校生活が送れたと思いますか。
(a) とても満足している(46.3) (b) 一応満足している(39.8) (c) あまり満足していない(13.0) (d) 全く満足していない(8)
8. あなたは徳山高専に入学できて満足していますか。
(a) とても満足している(51.0) (b) 一応満足している(46.3) (c) あまり満足していない(2.4) (d) 全く満足していない(0)
9. あなたが徳山高専に入学した目的は何ですか、次の該当するものすべての記号を○で囲んで下さい。
(a) 専門的な学問・技術を身につけるため(87.0) (b) 教養を高め人間的に成長するため(25.2) (c) 先生や友人と交流するため(13.0) (d) いいところに就職するため(57.7) (e) 学生生活をエンジョイするため(31.7) (f) 専攻科や他の大学に進学するため(19.5) (g) 何となく(4.9) (h) その他(2.4)
10. 現在、あなたの勉強への意欲は次のどれですか。
(a) 十分意欲がある(30.1) (b) 一応意欲がある(51.2) (c) あまりない(17.9) (d) 全くない(0.8)
11. あなたは徳山高専での勉強についていけるかどうか不安ですか。
(a) とても不安である(42.3) (b) 少し不安である(52.8) (c) あまり不安ではない(4.9) (d) 全く不安ではない(0)
12. 周りの新入生が自分より勉強面で優れているように思いますか。
(a) 強くそう思う(33.3) (b) 少しそう思う(48.0) (c) あまりそうは思わない(16.3) (d) 全くそうは思わない(2.4)
13. 自分には徳山高専で友人ができないのではないかと心配ですか。
(a) とても心配である(8.1) (b) 少し心配である(40.7) (c) あまり心配ではない(39.0) (d) 全く心配ではない(12.2)
14. あなたは徳山高専での学生生活がどのくらい楽しみですか。
(a) とても楽しみである(48.8) (b) 少し楽しみである(47.2) (c) あまり楽しみではない(4.1) (d) 全く楽しみではない(0)
15. あなたは自分が将来どんな職業につき、どんな人になりたいか、すでに心の中で決めていますか。
(a) はい(52.8) (b) いいえ(46.3) 無回答

- (0.8)
16. あなたは中学時代に個人的に打ち明け話をしたり、相談に乗ってもらえるような同性の親友がいましたか。
(a)はい(84.6) (b)いいえ(15.4)
17. あなたは徳山高専に知り合いの人がいますか。
(a)はい(87.0) (b)いいえ(13.0)
18. あなたは徳山高専に個人的に打ち明け話をしたり、相談に乗ってもらえるような同性の親友がいますか。
(a)はい(42.3) (b)いいえ(57.7)
19. あなたはある程度親しくつき合っている異性の友人がいますか。
(a)はい(38.2) (b)いいえ(61.8)
20. 今までに、反抗して親を手こずらせたことがありますか。
(a)はい(50.4) (b)いいえ(49.6)
21. 今までに、失敗や挫折をしてすごく悩んだことがありますか。
(a)はい(56.9) (b)いいえ(43.1)
22. 学生相談室で相談できるとしたら、あなたは次のどのような内容について相談してみたいですか。該当するものすべての記号を○で囲んで下さい。
(a) 勉強のこと(57.7) (b) 今まで知らなかった人たちとの出会いに関すること(20.3)
(c) 家庭のこと(1.6) (d) 自分の性格のこと(24.4) (e) 心の健康に関すること(8.9)
(f) 体の健康に関すること(8.1) (g) 性に関すること(1.6) (h) 友人関係のこと(22.0) (i) 恋愛に関すること(9.8) (j) 徳山高専が自分に合っているかどうかに関すること(17.9) (k) 進学のこと(26.8) (l) 就職のこと(31.7) (m) その他(8.1)
23. 前問で挙げてある項目の中で、「今すぐ」あなたが相談をしたい事柄があれば、その記号をすべて○で囲み、具体的に詳しくその相談内容を自由に書いてみて下さい。
※以下の質問には、寮生の人だけ答えて下さい。
24. 寮生活全般に関して不安を感じていますか。
(a) とても不安である(7.1) (b) 少し不安である(78.6) (c) あまり不安ではない(14.3) (d) 全く不安ではない(0)
25. 家族から離れて一人で生活するので寂しく思いますか。
(a) とても寂しい(0) (b) 少し寂しい(35.7) (c) あまり寂しくない(42.9) (d) 全く寂しくない(21.4)
26. 寮を出て自宅から通学したいですか。
(a) 是非自宅通学したい(14.3) (b) 少し自宅通学したい(14.3) (c) あまり自宅通学したくない(42.9) (d) 全く自宅通学したくない(28.6)
27. 現在、あなたは寮生活に関して学生相談室で相談してみたいような事柄や悩みがありますか。
(a)はい(14.3) (b)いいえ(85.7)
28. (27. で、「はい」と答えられた方へ) それはどのような事柄や悩みですか、次の該当するものすべての記号を○で囲んで下さい。
(a) 一人暮らしについて(0) (b) 寮の施設・設備について(7.1) (c) 先輩との関係について(7.1) (d) その他(0)
29. 寮生活に関する質問や悩み、訴えたいこと、「今」何となく考えていることなど何でもかまいません。自由に書いて下さい。

3. アンケート結果に見られる主な特徴

ここでは、アンケート結果からわかる平成14年度入学生の特徴を示す。まず、全体的に見て特に注目すべき点を挙げる。

問い4：「徳山高専はあなたが第一に志望した学校ですか。」に対して、「いいえ」と答えた学生が7.3%であった。また、問い5：「あなたは徳山高専の本当に入りたかった学科に入れましたか。」に対して、「いいえ」と答えた学生は、1.6%であった。さらに、問い8：「あなたは徳山高専に入学できて満足していますか。」に対して、「あまり満足していない」と答えた学生は、2.4%であった。

平成13年度入学生の場合、以上の3つの質問に対して、「いいえ」や「あまり満足していない」と答えた者が、それぞれ、13.5%、2.3%、5.3%であったことから、平成14年度入学生は、平成13年度入学生と比べて、自分の希望に添った形で満足した状態で徳山高専に入学してきた割合が高いということが分かる。

この点だけを見れば、不適応を起こしやすい学生の割合が平成13年度と比べて低いように思われる。

しかし、問い10：「現在、あなたの勉強への意欲は次のどれですか。」に対して、「あまりない」もしくは「全くない」と答えた学生の割合が18.7%（平成13年度は17%）にもものぼっているという事実に

は十分注意を払う必要がある。せっかく希望する学校に入学したにもかかわらず、最初から勉強意欲の低い学生が2割近くも存在しているという事実を教職員全員でしっかりと認識し、教務サイド、担任、学生相談室等が協力して、勉強に対する動機付けをし、家庭での学習習慣を身に付けさせるサポートを学生全体に対して、また、個々の学生に対して行っていく必要があることを強く訴えたい。

次に、問い11：「あなたは徳山高専での勉強についていけるかどうか不安ですか。」及び、問い12：「周りの新入生が自分より勉強面で優れているように思いますか。」について見てみる。問い11に対して、「とても不安である」もしくは「少し不安である」と答えた学生は、95.1%（平成13年度は87.1%）であった。問い12に対して、「強くそう思う」もしくは「少しそう思う」と答えた学生は、81.3%（平成13年度は83.5%）であった。このことから、平成13年度と同様、平成14年度入学生についてもそのほとんどが勉強に対して不安を持っていると言える。また、問い22：「学生相談室で相談できるとしたら、あなたは次のどのような内容について相談してみたいですか。該当するものすべての記号を○で囲んで下さい。」に対して「勉強のこと」の項目を選んだ学生が57.7%（平成13年度は59.4%）であり、「徳山高専が自分に合っているかどうかに関すること」の項目を選んだ学生が17.9%（平成13年度は18.8%）であることも、多くの学生の勉強や自分の取った進路に関する不安を反映していると言える。さらに、個人面談を実施した学生の多くが、勉強についての不安（例えば、「勉強の仕方が分からないので不安である」など）を持っていた。

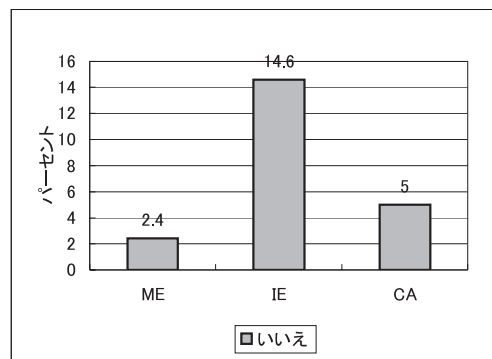
このような、多くの新入生が抱えている勉強についての不安を軽減させるためにも、例えば、平成13年度から入学予定者全員に対して春休みに実施している就学指導を、英語、数学、国語などの一般科目に関する指導に加えて、専門科目の勉強に関する分かりやすいガイダンス（例えば、1年次の専門科目ではどのような勉強をするので、入学までにどのような本を読んでおくと参考になるかを伝えるなど）も含めた指導にまで広げたり、現在公式には情報電子工学科のみで実施されているオフィス・アワーを他学科及び一般科目の教員も始めたりすることが必要であろう。

次に、学科別（以下、機械電気工学科=ME、情報電子工学科=IE、土木建築工学科=CAと表示する）及び、男女別にアンケート結果を分析して、特徴的

であると思われる項目についてグラフを用いて示すことにする。

◎問い4：「徳山高専はあなたが第一に志望した学校ですか。」に対して「いいえ」と答えた学生。（学科別）

表1 徳山高専が第一志望でない学生



第一志望ではないと答えた学生がIEに14.6%（41人中6人）いたことは、早い段階での適応サポートが特に必要であることを示している。ちなみに、平成13年度は、第一志望ではないと答えた学生がMEに集中していた。（50人中8人の16%）

◎問い6：「あなたが徳山高専に入学した動機は何ですか。」に対して「自由な校風だから」を選んだ学生。（学科別）及び、

◎問い9：「あなたが徳山高専に入学した目的は何ですか。」に対して「学生生活をエンジョイするため」を選んだ学生。（学科別）

表2 自由な校風を入学動機にした学生

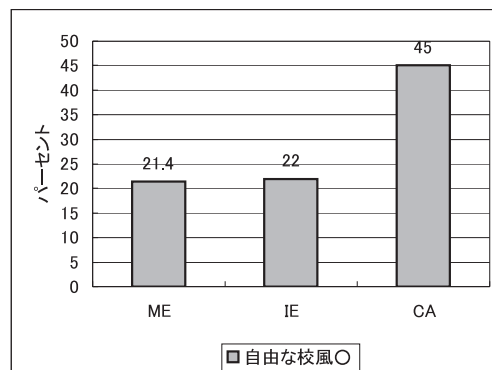
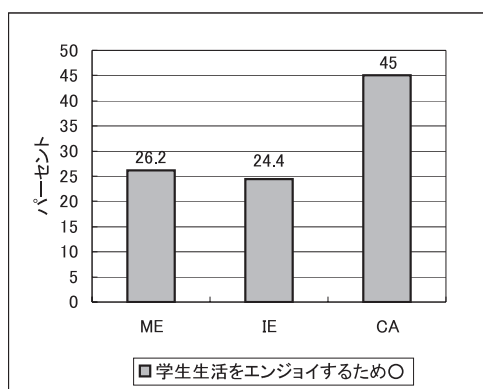


表3 学生生活をエンジョイするのが目的の学生

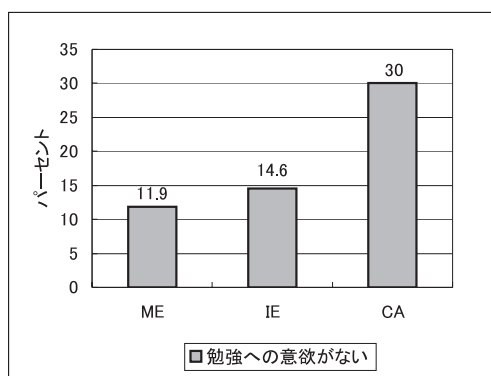


CAの約半数の学生が、「自由な校風」を入学動機の一つとして選んだり、入学の目的の一つとして「学生生活をエンジョイするため」をあげたりしていることは、特徴的である。

このような学生を適切に援助し、彼らの積極性を伸ばすことにより、Why not?の精神で何事にも果敢にチャレンジする人物を育成したいものである。それと同時に、しっかりとした生活指導体制のもと、このような学生が自己責任と勉学から逃避し、利己的な自由ばかり主張する人物になってしまうことのないよう、全教職員が一丸となって多方面からサポートしていくことも必要である。

◎問い10：「現在、あなたの勉強への意欲は次のどれですか。」に対して「あまりない」もしくは「全くない」と答えた学生。(学科別)

表4 勉強への意欲の少ない学生

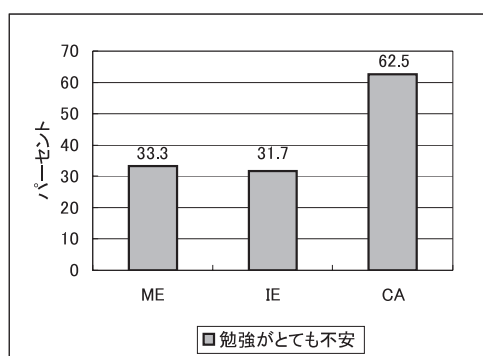


入学当初より勉強への意欲が欠如していると思われる学生がCAにおいて30%（40人中12人）に

ものぼることは要注意である。学校全体としての指導に加えて、学科としての効果的な援助が特に必要であることを、このデータは如実に表していると言える。ちなみに平成13年度は、勉強への意欲が欠如した学生がMEに集中していた。（50人中12人の24%）

◎問い11：「あなたは徳山高専での勉強についていけるかどうか不安ですか。」に対して「とても不安である」と答えた学生。(学科別)

表5 徳山高専での勉強がとても不安な学生



徳山高専での勉強がとても不安な学生の割合についてもCAが他の2学科と比べてほぼ2倍の62.5%（40人中25人）にもものぼっていることは、大きな特徴の一つである。

次に、回答の割合で男女間の差が大きい項目を挙げることにする。男女間で差が特に大きかったのは以下の4項目である。

◎問い10：「現在、あなたの勉強への意欲は次のどれですか。」に対して「あまりない」もしくは「全くない」と答えた学生。(男女別)

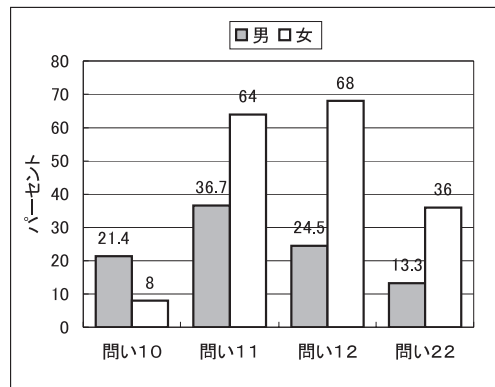
◎問い11：「あなたは徳山高専での勉強についていけるかどうか不安ですか。」に対して「とても不安である」と答えた学生。(男女別)

◎問い12：「周りの新入生が自分より勉強面で優れているように思いますか。」に対して「強くそう思う」と答えた学生。(男女別)

◎問い22：「学生相談室で相談できるとしたら、あなたは次のどのような内容について相談してみたいですか。」に対して「徳山高専が自分に合っているかどうかに関する事」を選んだ学生。(男女別)

これらを一括して示したものが次の表6である。

表6 男女間で特に差の大きい項目



勉強への意欲が欠如していると思われる男子学生の割合が女子よりもはるかに高い一方、勉強や周りの学生、そして徳山高専へ進学したことに対して大きな不安を抱えている割合は、女子の方が圧倒的に高いことが分かる。

入学当初の学生が持つ様々な不安を取り除き、充実した学生生活への適切な方向付けを行うことができるよう、学生相談室と担任とが協力してあらゆる場面で適応援助することが重要であると言える。

4. まとめ

新入生に対して入学直後にアンケート調査を実施し、その結果を分析することにより、新入生の適応援助をするというプログラムを実行したのは平成14年度で2回目となる。

例えば、徳山高専での勉強に対して大きな不安を持つ学生の割合がかなり高いなど、新入生全体の傾

向として、平成13年度の新入生の傾向と平成14年度の新入生の傾向が一致している部分も確かにある。

しかし、第3節でも示したように、データに基づいて、より細かくアンケート結果を分析すると、年度によって新入生の傾向が、特に学科間で大きく異なることが分かる。

学生相談室では、今後もこの新入生アンケートを継続的に実施し、新入生の学科別の特徴等をデータをさらに詳しく分析することによって明らかにしていきたい。また、クラス担任との協力を従来通り推進することに加えて、学科担任との連携にさらに力を入れていきたい。

謝辞

本稿を作成するにあたり、松尾葉子看護師にはアンケートの基礎データ入力等で多大なる尽力と協力をいただいた。ここに記して謝意を表する。

参考文献

- 1) 国重、佐々木：新入生アンケートを活用した入学時適応援助の方策について、論文集「高専教育」、第25号、PP. 455-460 (2002)
 - 2) 佐々木、国重：高専における学生相談の具体的な活用策——心理検査を利用したキャリア・ガイダンスの試み——、論文集「高専教育」、第25号、PP. 461-466 (2002)
 - 3) 鳴澤：学生相談入門、川島書店、PP. 185-208 (1986)
 - 4) 鳴澤：新入生の実態調査、東京都立大学学生相談室レポート、9、PP. 6-42 (1980)
- (2002. 9. 4 受理)